

一名の伊犁より北京に行く者に逢へり。

### 第三節 沿途の一斑

河南の索寞たるに意外の感を懷きし予は敢て多きを陝西に望まず。洛陽の凋落に一驚を喫せし予は、重ねて長安の繁榮を想はざりき然るに陝西に入りて復た稍意外の感を起せり。

大體に於て之を云へば、河南は既に老ひ去りて、一に強壯の後繼者に俟たざるべからざるが如きに反し、陝西は尙ほ夔鑠として餘勇あるものに似たり。洛陽の凋落は單に其の名を留むるに過ぎざるに反し、長安の殷賑は能く古帝都たるの面目を保ち、予が餘りに豫期せざりしだけに、却て愉快の感を興へしめたり。

穴居の土民は寧ろ河南より多し、蓋し山地多きと木材の缺乏とは同じく其の大原因なるべし。嘗て北清團匪の亂に於て、西太后の西安に蒙塵せらるゝや、離宮の修理に要すべき木材は之を陝西省内に得ること能はずして、已むを得ず遠隔せる甘肅省の蘭州より搬致したりと云ふに徴するも如何に木材の貴重なるかを推知

洛陽の凋落と長安の殷賑

木材の缺乏と離宮の修理